

1.計画名称

茅野市子ども・家庭応援計画

2.計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	おおむね順調	説明	(R4評価)各施策ともコロナ禍ではあったが、工夫しながらレベルに応じた方法で再開することができた事業や方法を交えて実施した事業もあった。施策目標2の「支える」については、相談件数が前年度より増加となり、小中学校への訪問、支援会議を継続的に行いながら対応することができた。 (総括評価)コロナの影響を受け、令和2年度から令和4年度にかけてイベントや事業等の実施が中断される状況となったが、「育ちあいち」が中心となり子どもや家庭の相談・支援を継続し、危機的な状況を乗り越える大きな支えとなることができた。また、新たな事業への転換や業務改善につながった部分もあった。
今後の重点化施策番号	6	説明	子ども・家庭への支援については、平成30年4月に子ども・家庭総合支援拠点「育ちあいち」が開設されてから、専門スタッフの充実を図り継続的な相談・支援を行ってきた。国は今年4月に「子ども家庭庁」を設置し、市町村は「子ども・家庭支援拠点」と「子育て世帯包括センター」を見直すとともに、全ての妊産婦・子育て世帯・子どもの包括的な相談支援を行う「こども家庭センター」を設置して、子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化が求められており、茅野市においても令和6年4月設置に向けて準備を進めている。

3.各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	乳幼児期の発育・発達と家庭教育の充実(10)	おおむね順調	(R4評価)行財政改革に伴う協議により、令和4年度から、一部講座をこども課に移行したことによる参加者数の減。 (総括評価)行財政改革に伴い、数年かけて子育てに関する講座を体系的に整理・統合し子育て講座の充実を図った。	(R4・総括評価共通)主に未就園児親子の子育て・家庭教育講座を実施してきたが、体系的な整理により、未就園児親子の講座はこども館へ統合した。今後、家庭教育センターで実施する子育て・家庭教育講座は、様々な年代になるため、働いている方が参加しやすい時間帯や、興味をもってもらえる内容を検討していく。	講座開催時などに、必要な講座内容を把握し、今後の講座の参考とする。
2	乳幼児期の保育・教育の充実(8)	おおむね順調	(R4・総括評価共通)公立保育園、認定こども園、私立幼稚園において、入所を希望する児童を全て受け入れることができた。また、幼保小連携事業では、コロナ禍でできる取り組みを工夫して実施したことにより、小学校に安心して入学を迎えることができ、小学校1年生における学校生活の満足度は上昇した。	(R4・総括評価共通)未満児の入園希望及び支援を必要とする子どもは年々増加している一方、職員採用に応募する者は減少傾向にあり、保育士不足により、入園希望者を全て受け入れる事が難しくなることが予想される。	保育士が働きやすい環境を整えるためのICTシステムによる業務改善を引き続き行う。
3	学校教育の充実(8)	順調	(R4・総括評価共通)施策の柱1については、各事務事業の実施により、児童生徒の満足度の増、教職員の時間外勤務の減など成果が表れている。 施策の柱2については、第1次小中学校管理計画に基づき順次実施している状況。	(R4・総括評価共通)子どもを取り巻く環境が複雑化・多様化している。児童生徒やその家庭を含めた支援や専門的な立場からの関わりが必要なケースが増加しているため、「育ちあいち」を核とした包括的な支援体制を充実させていく必要がある。 学校規模の検討により、学校施設の整備方針を作成していく必要がある。	学校を核として、地域住民が学校活動の支援や課題解決に向けた取組を行うコミュニティスクールの充実が重要となってくる。また、学校と地域をつなぐ地域コーディネーターの人材確保と学校運営委員会の充実を図る必要がある。学校の整備方針について、行財政改革の方針に合せ、整備内容、整備順序を再検討していく。
4	体験機会の充実(11)	やや遅れている	(R4・総括評価共通)日帰りながら4年ぶりにリーダー育成研修会を実施するなど、新型コロナウイルス感染症の影響により見合わせていたリーダースクラブの活動を再開した。	(R4・総括評価共通)リーダースクラブの活動ができなかった期間の影響から、会員の減少や技術の伝承が困難となり、活動の幅が狭まっている。	活動再開の兆しが見える地区・単位育成会の支援を継続していく。
5	多様な課題に対する取組の充実(9)	おおむね順調	(R4・総括評価共通)道徳、生徒指導、いじめ対策、不登校対応といった心の教育(心もよつばのクローバープラン)を基に人権教育を進めている。	(R4・総括評価共通)いじめや偏見の未然防止のために人権教育の推進と指導資料を活用した啓発を継続していく必要がある。	インターネット利用による人権やプライバシー侵害が問題視されていることから、人権を尊重し、モラルを守るための教育を進めていく。

※5つ以上の場合は裏面へ

4.関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

	主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称 子ども・家庭応援会議	少子化、体験・交流の場の減少等、子どもを取り巻く環境が大きく変化してきている。また、コロナ禍で、イベントや行事等が中止となっていたが、徐々に再開されてきている。今年度、茅野市子ども・家庭応援計画(どんぐりプラン)の見直しが行われるが、時代に合った見直しを行い、子育て・子育て施策を充実させてほしい。	今年度のどんぐりプランの見直しで、後期の重点取組項目をし絞り込んでいる。同時に、重点的に取組むことについて、子どもたちの意見を聴くためにアンケートを実施し、後期の取組に反映していきたいと考えている。
関連市民団体等名称 どんぐりネットワーク茅野	どんぐりプランも、策定してから二十数年経っている。今の状況や子どもたちの現状も変わってきているので、その現状に合わせた支援や応援体制のための施策(貧困対策、多様な学び、体験機会の創出、SOSのキャッチアップ体制等)を考えるべきだと思う。そのために、広く意見を聴く仕組みも必要だと思う。	どんぐりネットワーク茅野を含め、様々な子育て団体から後期に重点的に取組んでいくことについて意見を寄せていただいた。また、新たな取組として、子どもたちの意見を聴くためにアンケートを実施し、後期の取組に反映していきたいと考えている。
関連市民団体等名称		
開催回数		
参加延べ人数		

5.添付資料

別紙「施策評価シート」

3.各施策等における評価内容と改革改善(5つ目以降)

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
6	子ども・家庭への支援の充実(1)	順調	(R4・総括評価共通)アセスメント作成による課題の整理、支援方針の策定により、関係機関との連携(チーム支援)のもと、それぞれの役割を明確にし、責任を持ちながら子どもとその家庭全体を継続的に支援することができた。更に、定期的な進捗状況の確認を行うことで支援が切れることなく対応することができた。	(R4・総括評価共通)継続支援と専門性を求められるケースが増加していることから、正規職員の負担が大きい。専門職を含む職員体制の強化が必要となっている。	複雑な課題に対応できるよう各種種を兼結したチーム支援の実施、関係機関との情報共有を継続して実施していく。職員の技術向上のため各種研修会の参加。 正規職員(社会福祉士)の配置による体制が強化された。
7	保健・福祉事業の充実(2)	おおむね順調	(R4・総括評価共通)妊娠届出をした妊婦の割合は高い水準を維持している。妊産婦の把握を確実にし、きめ細かい支援に繋がっている。 コロナ感染の落ち着きにより、乳幼児健診受診率も目標値に近づいた。	(R4・総括評価共通)育てにくさを感じた時に対処できる親の割合が減少していることから、安心して出産子育てができるために、妊娠届出や赤ちゃん訪問時に、抱えている不安等を丁寧に聞き取る必要がある。	・出産・子育てに不安を抱えている妊産婦に対して、聞き取りを行い、必要な支援を提案するなど、寄り添いながら関わっていく。 ・パパママ講座などの参加希望者が増加していることから、回数内容の見直しをする。
8	地域で支える子育て応援の充実(3)	おおむね順調	(R4・総括評価共通)国果からの補助金や加配教員の配置が見込まれないため、市内の各学校に茅野市型コミュニティスクールを構築し、事業に取り組んでいる。また、地区こども館の運営やどんぐりネットワーク茅野の取組を通じて、子育てに関わる仕組みづくりを行っている。	(R4・総括評価共通)国からの補助金の活用も含めて国型のコミュニティスクールへの移行に向けて検討を進めている。	地域と共にある学校づくりを目指すために、引き続き全小中学校に活動費を配分し活動を支援していく。
9	居場所づくりの推進(4)	おおむね順調	(R4・総括評価共通)こども館について、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、状況に応じ利用制限の見直しを行ったことで利用者増につながった。 地区こども館について、地区運営委員会と現状を共有し、運営方法等について協議することができた。 新型コロナウイルス感染症防止の対策をとりながら各施設を安心して利用していただけるよう努めた。	(R4・総括評価共通)0123広場においては、居場所としての機能は回復したが、講座やイベント等の実施が通常どおりに行えなかったため、再構築する必要がある。 CHUKOらんどテノテノにおいては、通常通りのイベント等が開催できず新規利用者を増やすことができなかったため、今後検討する必要がある。 地区こども館においては、新型コロナウイルス感染症防止の対策について、どの程度の水準をいつまで維持していくかの判断が難しいため、国等の発言や動向を注視していく必要がある。設置から約20年が経過する中で、現在に合った形の地区こども館の在り方等を検討していく必要がある。	0123広場で実施する講座にとどまらず、家庭教育センター等の外部施設で実施してきた連続講座を担うことにより、親同士の繋がりの継続性も支援していく。 CHUKOらんどテノテノでは、イベントを行うだけでなく、各学校との繋がりを、SNSでの情報発信をしていく。 地区こども館の安全管理について、これまでできていなかった学校との安全管理に係る認識の共有を図ることで、全地区こども館統一的な利用規約を定め、周知することができた。
10	親育ちの推進(6)	おおむね順調	(R4・総括評価共通)一日保育士体験及び親支援講座は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一定期間停止又は中止したが、一日保育士体験は、昨年度より受入れ期間が増えたため参加率は微増し、親自身の子育てを見直すきっかけとなり、保育に対する理解の向上に繋がっている。講座は親の育児不安やストレスの解消に繋がっている。	一日保育士体験への父親の参加が少ない。また、各種講座への参加者が減少傾向にある中、PR方法の検討が必要である。	乳幼児健診やこども館にきている親に声かけをするなど、機会を捉えて講座への参加を促すと共に、講座内容のわかり易い広報や一日保育士体験の良さを積極的にPRする。講座へ参加した者同士が、顔見知りとなりアドバイスやサポートをし合う関係づくりができるような機会を提供する。
11	子育てを通じて学び・育ち合う環境づくりの推進(7)	おおむね順調	(R4・総括評価共通)講演会について、一定期間Youtubeによる動画配信を行うことで、会場に足を運ばずに安心して講演を聴いていただくことができた。	(R4・総括評価共通)生活様式の変化や子どもを取り巻く問題の変化といった社会情勢の変化や、情報技術の発達等にもなう啓発方法の多様化を受け、事業の在り方や時代に合った実施方法を検討する必要がある。	推進大会の開催を通じて、親が子育ての主役になれるように、情報提供や応援・支援を行い、子育てに関係している団体、個人や親同士が繋がれる場、仕組みづくりにつなげたいため。
12	夢のある子どもの育成(5)	おおむね順調	(R4・総括評価共通)市内の中高生の社会参加や子どもの意見の市政への反映、主権者意識の醸成を図るため、子ども版のまちづくり懇談会を開催した。	(R4・総括評価共通)子どもたちの主体的な活動を促す、支援する市の取り組み方について検討する必要がある。	「ぼくらの未来プロジェクト」事業の終了にあたり、子どもの社会参加を担う事業として新規事業を展開した。